

# 平成26年度 学校評価実施報告書

(別添様式)

## 3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価日	評価者(いずれかに○)
1 確かな学力	基礎的・基本的学習内容の定着と徹底	◆朝学習の充実 ◆定期テスト前の学習会	朝学習の取組状況 学習会への参加状況	朝学習は後半も落ち着いた状態で取り組んでいる。また、学習会への参加も教科ににより多少差はあるが、自主的に学習会に参加する生徒も増えてきた。	⇒	学力面ではある一定の成果は見られるが、コミュニケーションに課題があり、言語活動を充実させる取組が必要である。引き続き、小・中学校が連携して取り組んでいきたい。 また、朝学習の確認テストや授業においては学習した内容の演習問題や反復練習の徹底が必要だと考える。 なお、家庭学習については、習慣化が身につくよう宿題の出し方	学習面についてのご意見はとくになかったが、「生徒たちが落ち着いて将来を見据え、進路を考えてほしい」という感想をいただいた。	2年生の取組報告の中で、生き方探究・チャレンジ体験を柱において、職業についての調べ学習、行かたい職場を決めるための面接の実施、職場体験への参加等を通じて、将来の進路を考えさせる取組をしていることを伝えた。
	わかる授業の実践と教科指導力の向上	◆校内及び小中合同での研究授業・研究協議の実施	①「学校での授業はわかりやすい」、②「授業に集中して取り組んでいる」、学習確認プログラム・全国学力調査の結果	①は80%、②は80%強が大体そう感じている。 ①は80%強、②は80%強が大体そう感じている。また、学力・全国学力調査とも年生は上昇傾向、1・2年生は下降気味となっている。		①は80%が大体できていると回答しているが、3年生ともできていると答える生徒は約50%に留まっています。	①は80%強、②は90%弱、③は95%近くが大体できている。 1年一ヶ一年教室を12月に実施。	①は85%強、②は90%弱、③は95%近くが大体できている。 1年一ヶ一年教室を12月に実施。
	家庭学習の習慣化	◆継続した宿題の実施(週末プリントも含む)	①「宿題はきちんとできている」 全国学力調査の生徒質問紙の結果	①は80%が大体できていると回答しているが、3年生ともできていると答える生徒は約50%に留まっています。		①は85%強が大体できていると感じている。 ①は85%強、②は90%弱が大体そう感じている。また、「3年生を送る会」では一生懸命取り組み、生徒も達成感があったと感じている。	規範意識に関しては、数値を見る限りでは規範意識が概ねあると判断できるが、学校でのようを見ると、数値ほど実践できているとは考えにくい。全国学力調査の結果からもそれは見て取れる。ただし、後半あいさつは徐々にできるようになってきた。 実践が伴って規範意識が向上する取組が今後も必要である。そのためには生徒会活動の活性化が重要となる。	規範意識に関しては、数値を見る限りでは規範意識が概ねあると判断できるが、学校でのようを見ると、数値ほど実践できているとは考えにくい。全国学力調査の結果からもそれは見て取れる。ただし、後半あいさつは徐々にできるようになってきた。 実践が伴って規範意識が向上する取組が今後も必要である。そのためには生徒会活動の活性化が重要となる。
2 豊かな心	規範意識の向上	◆生活確立週間等の実施 ◆非行防止教室・ケータイ教室等の実施	①「学校のきまりを守っている」、②「掃除をきちんとしている」、③「学校のものを大切に扱っている」	①は85%強、②は90%弱、③は95%近くが大体できている。 1年一ヶ一年教室を12月に実施。	⇒	規範意識に関しては、数値を見る限りでは規範意識が概ねあると判断できるが、学校でのようを見ると、数値ほど実践できているとは考えにくい。全国学力調査の結果からもそれは見て取れる。ただし、後半あいさつは徐々にできるようになってきた。 実践が伴って規範意識が向上する取組が今後も必要である。そのためには生徒会活動の活性化が重要となる。	規範意識に関しては、数値を見る限りでは規範意識が概ねあると判断できるが、学校でのようを見ると、数値ほど実践できているとは考えにくい。全国学力調査の結果からもそれは見て取れる。ただし、後半あいさつは徐々にできるようになってきた。 実践が伴って規範意識が向上する取組が今後も必要である。そのためには生徒会活動の活性化が重要となる。	規範意識に関しては、数値を見る限りでは規範意識が概ねあると判断できるが、学校でのようを見ると、数値ほど実践できているとは考えにくい。全国学力調査の結果からもそれは見て取れる。ただし、後半あいさつは徐々にできるようになってきた。 実践が伴って規範意識が向上する取組が今後も必要である。そのためには生徒会活動の活性化が重要となる。
	自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成	◆心の居場所のある学級・学年づくり ◆生徒による学校行事の取組	①「学校生活は楽しく充実している」、②「学級のみんなと仲良く過ごしている」、行事を終えての反省・感想	①は85%強、②は90%弱が大体そう感じている。また、「3年生を送る会」では一生懸命取り組み、生徒も達成感があったと感じている。		①は85%強、②は90%弱が大体そう感じている。また、「3年生を送る会」では一生懸命取り組み、生徒も達成感があったと感じている。	規範意識に関しては、数値を見る限りでは規範意識が概ねあると判断できるが、学校でのようを見ると、数値ほど実践できているとは考えにくい。全国学力調査の結果からもそれは見て取れる。ただし、後半あいさつは徐々にできるようになってきた。 実践が伴って規範意識が向上する取組が今後も必要である。そのためには生徒会活動の活性化が重要となる。	規範意識に関しては、数値を見る限りでは規範意識が概ねあると判断できるが、学校でのようを見ると、数値ほど実践できているとは考えにくい。全国学力調査の結果からもそれは見て取れる。ただし、後半あいさつは徐々にできるようになってきた。 実践が伴って規範意識が向上する取組が今後も必要である。そのためには生徒会活動の活性化が重要となる。
	豊かな心の育成	◆あいさつ運動 ◆福祉体験・職場体験等の実施 ◆道徳教育の充実	①「学校ではあいさつがきちんとできている」	①は80%が大体できている。 1年1回福祉体験(福祉施設訪問体験)を10月、2年生きゅう体験(職場体験)を1月に実施。道徳の持ち回り授業、道徳資料のセッタ化実施。		①は85%強、②は90%弱が大体できている。 1年1回福祉体験(福祉施設訪問体験)を10月、2年生きゅう体験(職場体験)を1月に実施。道徳の持ち回り授業、道徳資料のセッタ化実施。	規範意識に関しては、数値を見る限りでは規範意識が概ねあると判断できるが、学校でのようを見ると、数値ほど実践できているとは考えにくい。全国学力調査の結果からもそれは見て取れる。ただし、後半あいさつは徐々にできるようになってきた。 実践が伴って規範意識が向上する取組が今後も必要である。そのためには生徒会活動の活性化が重要となる。	規範意識に関しては、数値を見る限りでは規範意識が概ねあると判断できるが、学校でのようを見ると、数値ほど実践できているとは考えにくい。全国学力調査の結果からもそれは見て取れる。ただし、後半あいさつは徐々にできるようになってきた。 実践が伴って規範意識が向上する取組が今後も必要である。そのためには生徒会活動の活性化が重要となる。
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	◆早寝・早起き・朝ごはん ◆保健だより等による啓発	①「遅くとも12時には寝ている」、②「朝食は毎日食べている」 保健だよりの発行回数	①は65%、②は90%弱が大体できている。 保健だよりは毎月1回発行中。	⇒	朝食はほとんどの生徒が大体はとっているが、食事のよさを見ると、給食を残す生徒が結構見られる。食教育に関する啓発が必要だと感じる。 また、平日に2時間以上テレビを見たり、ゲームで遊んだり、ケータイ・スマートホンを使う生徒が半分以上おり、就寝時間が遅くなる原因の1つとなっている。食教育や健康教育の取組も必要である。	基本的生活習慣の確立には、地道な啓発活動と家庭との連携が必要である。 今後も、PTAの会議や学校により、ホームページ等でも啓発していく。また、授業や学級の時間で、生徒に啓発していくことも必要である。	とくにご意見はなかった。
	身体や生命を大切にする取組の充実	◆性教育の実施 ◆健康・安全・防災教育の実施(薬物乱用防止教室・防煙教室含む)	取組状況と生徒のようす	3年生物乱用防止教室、1年性教育学活(男女の違い)を1月・2月に実施。 避難訓練(地震)を1月に実施。		小中一貫教育の取組を通じて、小・中・小の連携が深まっていると感じ、連携を好意的に捉えている教職員がかなり増えた。 児童・生徒の満足度も高まっている。 地域の方のお力を借りし、学力向上と環境美化に取り組んでいる。放課後学習・土曜スクールでは真面目に取り組むことが多い。 地域の教育力の活用では、協力していただける地域ボランティアの方を採用することが重要である。 また、放課後学習会等では生徒数の確保が必要であり、担任や家庭との連携が不可欠である。 ホームページについては、引き続きアリタイムな情報発信とアクセス数を増やすための工夫(広報等)を行いたい。	小中一貫教育では、「言語活動の充実」と「自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成」を重点目標に掲げ、目標達成のための具体的な取組を組み、小・中で話し合い、実践している。振り返り・点検をしながら、今後も引き続き継続して取り組みたい。	声かけをしていただけた。何かあれば学校に連絡していただきたい。
4 独自の取組	小中一貫教育の推進	◆小中が連携した取組の実施(主任会議・授業研究・研修会・オープンスクール・部活動交流会)	小中主任会やオープンスクール等の実施状況、児童・生徒・教職員アンケートの結果	小中主任会(5回)、授業研修(10~1月)、小中部活動交流会(11月)実施。取組はよかったですと感じる児童・生徒、教職員が多かった。	⇒	小中一貫教育の取組を通じて、小・中・小の連携が深まっていると感じ、連携を好意的に捉えている教職員がかなり増えた。 児童・生徒の満足度も高まっている。 地域の方のお力を借りし、学力向上と環境美化に取り組んでいる。放課後学習・土曜スクールでは真面目に取り組むことが多い。 地域の教育力の活用では、協力していただける地域ボランティアの方を採用することが重要である。 また、放課後学習会等では生徒数の確保が必要であり、担任や家庭との連携が不可欠である。 ホームページについては、引き続きアリタイムな情報発信とアクセス数を増やすための工夫(広報等)を行いたい。	小中一貫教育では、「言語活動の充実」と「自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成」を重点目標に掲げ、目標達成のための具体的な取組を組み、小・中で話し合い、実践している。振り返り・点検をしながら、今後も引き続き継続して取り組みたい。	とくにご意見はなかった。
	地域の教育力の活用	◆地域ボランティアによる「放課後学習会・土曜スクール」、「学校を花いっぱいにする運動」の実施	取組の実施状況と生徒やボランティア・PTAの参加状況	放課後学習会は週3回(月・水・金)、土曜スクールは月2回実施。参加生徒数が減少傾向。花いっぱい運動は週1回(金)に実施。PTAも8回実施。		小中一貫教育では、「言語活動の充実」と「自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成」を重点目標に掲げ、目標達成のための具体的な取組を組み、小・中で話し合い、実践している。振り返り・点検をしながら、今後も引き続き継続して取り組みたい。	小中一貫教育では、「言語活動の充実」と「自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成」を重点目標に掲げ、目標達成のための具体的な取組を組み、小・中で話し合い、実践している。振り返り・点検をしながら、今後も引き続き継続して取り組みたい。	とくにご意見はなかった。
	情報発信の充実	◆積極的なホームページの更新 ◆学校だよりの発行	ホームページのアクセス数 学校だよりの発行回数	アクセス数10,330件(10月~2月15日)。昨年度の1.84倍に増加。 学校だよりは毎月1回、年間12回発行済み。		小中一貫教育では、「言語活動の充実」と「自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成」を重点目標に掲げ、目標達成のための具体的な取組を組み、小・中で話し合い、実践している。振り返り・点検をしながら、今後も引き続き継続して取り組みたい。	「豊かな心」の欄に出たご意見(校区内の環境美化への協力依頼)に関連して、本校の取組の1つにある「小中高合同地域一斉清掃」がここ3年雨天中止となっており、予備日の設定等の工夫を検討してみることを伝えた。	とくにご意見はなかった。

## 4 総括・次年度の課題

いずれ社会に出て自立していかなければならない生徒に、社会人として必要なマナーや自分の将来を考えさせる機会を持つことは大切であると感じている。今年度の取組を踏まえ、次年度もさらに広げ、そういう機会をつくっていくたい。

アンケートの集計結果から見えてくる本校生徒の実態や課題を、小・中学校が共有し、課題解決に向けて同じ歩調で取組が進められるよう、次年度も小中連携に取り組んでいきたい。そのために、小・中学校でアンケート項目を揃えるなどの工夫が必要ではないかと思っている。次年度に向けて検討していきたい。

また、コミュニケーションが上手くとれない生徒が多い実態や「夢や目標がある」「自分の良さや自分への自信がある」と答える生徒が少ない実態が見られる中、小・中学校が共通のテーマで取り組んでいる「コミュニケーション能力を育成するための“言語活動の充実”」「自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成」は、各校での取組の方向性を示す点で有効であったと感じている。次年度も継続して取り組む必要がある。